

# 気候の非常事態

## 人類の将来に暗雲

二〇〇七年から二〇〇九年にかけて筆者は専門外ではあるが、「温暖化地獄」、「温暖化地獄 Ver.2」、「残された時間」(ダイヤモンド社)の三連作を出版した。

最大の関心はこれまで通りの暮らし方を続けると危険な気候変動が始まるのは、気候システムの臨界点や地球温暖化の帰還不能地点はいつ頃になるのかということであった。



東京大学名誉教授  
山本 良一 氏

二〇一六年の地球気候を振り返ってみれば、二〇一六年こそがその年だったのであるまいか。

世界気象機関は昨年十一月に暫定的予想として二〇一六年の世界の平均気温は産業化前と比べて1・2℃上昇する見込みと発表した。

もしこれが事実なら二〇一五年よりわずか一年で世界の平均気温は0・2℃上昇することになり、地球温暖化が急加速していることになる。

さらにNSIDC(註1)によればグローバルな海氷面積の年間推移が二〇一六年は初めて過去の平均値を大幅に下回った。

九月の北極海氷面積は一トンのCO<sub>2</sub>排出量あたり3m<sup>2</sup>ずつ減少しており、このままでは数十年以内に消失する見込みである。

また温暖化に伴い北半球の土壌中の炭素が急速に失われて大気中にCO<sub>2</sub>として放出されていることが解明され、これによって二〇五〇年までにIPCC(註2)の予測値よりさらに1℃、世界の平均気温が上昇する見込みという。

これを要するに地球気候システムは非常事態にあるということではなからうか。

幸い二〇一六年十一月四日にパリ協定が発効したけれども、今月トランプ氏が米国の次期大統領に就任してパリ協定からの脱退を表明

するかもしれないという人類の将来に暗雲が立ち込めている。

世界の政治・経済の指導者には膨大な科学的知見に目を見開いていただきたいものである。

幸い再生エネ電力のコストは劇的に低下し、一方で化石燃料からの投資の引き上げ(Divestment)運動が燎原の火の如く広がっている。

エコイノベーションやエコビジネスの急速な拡大とエシカル経営やエシカル消費の大潮流は人々を勇気付けているのである。

(完)

(註1) NSIDC: 《National Snow and Ice Data Center》氷雪圏の観測およびデータの管理・配信などを行う米国の研究機関。出典: デジタル大辞泉  
(註2) IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 出典: Wikipedia

# 南極で巨大氷山が分離のおそれ 海面上昇の可能性も

## 1月8日のWEBニュース転載

画像はこちらから <http://www3.nhk.or.jp/news/html/20170108/k10010832331000.html>

南極大陸の西側にある棚氷の亀裂が急速に広がっていることがわかり、イギリスのプロジェクトチームは「氷山として分離すれば、海面が上昇する可能性がある」と指摘しています。

南極大陸の棚氷の動向を観察して地球温暖化との関係を研究しているイギリスのプロジェクトチーム「MIDAS」の発表によりますと、大陸の西側に張り出した南極半島の「ラーセンC」と呼ばれる棚氷にある亀裂が先月になって急速に拡大し、現在は長さ80キロ以上になっているということです。

そして、亀裂があと20キロ伸びると、面積が千葉県とほぼ同じおよそ5000平方キロメートルの巨大な氷山として分離し、漂流するというのです。

プロジェクトチームは「数か月以内に分離するかもしれない。南極大陸のほかの部分も不安定となり、海面が上昇する可能性がある」と指摘しています。

南極大陸では「ラーセンC」の近くにあった3250平方キロメートルの「ラーセンB」と呼ばれる棚氷も2002年に分離していて、地球温暖化の影響ではないかと懸念されています。

## 南極の氷が全部とけたらどうなるの？

環境省／なんきょくキッズより転載

南極の氷の量は26.92×106 km<sup>3</sup>、地球上の氷の90%が南極大陸に、9%がグリーンランドにあります。南極の氷の厚さは最も厚い所で4,500m、平均2,450mです。

南極の氷が溶けてなくなると、氷の重さで沈んでいた大陸が浮き上がります。また、氷が溶けたことにより、現在より海面が40～70m上昇すると考えられています。

2002年5月には、南極の大きいラーセン棚氷が崩落しました。地球温暖化の影響ではないかと考えられています。



13mも海面が上昇すると、大阪、名古屋、東京を中心とするの三大都市圏はすべて壊滅的な打撃を受けことになりそうです。また、中国の上海も「+13m」では沈没。

ヨーロッパの沿岸沿いに位置するオランダやデンマークでは、国土の大半が失われています。

<http://gigazine.net/news/20160113-global-sea-level-rise-map/>で見ることが出来ます。